

## ⑥刊行物に関する事業一覧

| プロジェクト及び刊行物の名称  | 担当部門         | 頁  |
|---|--------------|----|
| 東京文化財研究所 75 年史編纂事業 (情 04)   | 企画情報部        | 85 |
| 『東京文化財研究所年報』 (* 情 05)   | 企画情報部        | 85 |
| 『東京文化財研究所概要』 (* 情 05)   | 企画情報部        | 85 |
| 『東文研ニュース』 (* 情 05)  | 企画情報部        | 85 |
| 平成 17 年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」(美 04)  | 美術部          | 85 |
| 無形文化遺産部出版関係事業 (無 04)  | 無形文化遺産部      | 86 |
| 「保存科学」46 号の出版 (保 04)  | 保存科学部        | 87 |
| 第 29 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書 (セ 09)  | 文化遺産国際協力センター | 89 |
| 『龍華寺 菩薩半跏像—美術研究作品資料—第四冊』 (* 美 01)   | 美術部          | 91 |
| 『黒田清輝著述集』 (* 美 02)  | 美術部          | 91 |
| 『韓日共同研究報告書 2006』 (* 修 01)   | 修復技術部        | 92 |
| 『文化財の防災計画に関する研究 第 2 回研究会—震災から文化財をまもる—』 (* 修 02)                             | 修復技術部        | 92 |
| 『伝統的修復材料に関する調査研究 V』 (* 修 03)  | 修復技術部        | 93 |
| <i>International Course on Conservation of Japanese Paper 2006</i> (* 修 05) | 修復技術部        | 93 |
| 『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成 18 年度(絵画/工芸品)』 (* 修 04)                           | 修復技術部        | 94 |
| <i>Conservation of Large Scale Structures</i> (* 修 06)                      | 修復技術部        | 95 |
| 『呉市における近代化遺産の保存修復と活用』 (* 修 06)  | 修復技術部        | 95 |
| 『文化遺産の生物劣化と国際協力』 (* セ 01)   | 文化遺産国際協力センター | 96 |
| 『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究—平成 18 年度成果報告書』 (* セ 02)                 | 文化遺産国際協力センター | 96 |
| 『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2006』 (* セ 04)   | 文化遺産国際協力センター | 97 |
| 『アフガニスタン流出文化財の調査—バーミヤーン仏教壁画の材料と技法』 (* セ 05)                                 | 文化遺産国際協力センター | 97 |
| <i>Radiocarbon Dating of the Bamiyan Mural Paintings</i> (* セ 05)           | 文化遺産国際協力センター | 99 |
| <i>Study of the Afghanistan's Displaced Cultural Properties</i> (* セ 05)    | 文化遺産国際協力センター | 99 |

- \*注 ・『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』は、所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（情05）の一環として実施した。
- ・『龍華寺 菩薩半跏像 美術研究作品資料 第四冊』は、東アジアの美術に関する資料学的研究（美01）の一環として実施した。
- ・『黒田清輝著述集』は、近現代美術に関する総合的研究（美02）の一環として実施した。
- ・『韓日共同研究報告書 2006』は、周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（修01）の一環として実施した。
- ・『文化財の防災計画に関する研究 第2回研究会 震災から文化財をまもる』は、文化財の防災計画に関する調査研究（修02）の一環として実施した。
- ・『伝統的修復材料に関する調査研究Ⅴ』は、伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（修03）の一環として実施した。
- ・*International Course on Conservation of Japanese Paper 2006*は、国際研修第10回「紙の保存と修復」（修05）の一環として実施した。
- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成18年度（絵画/工芸品）』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（修04）の一環として実施した。
- ・*Conservation of Large Scale Structures*は、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（修06）の一環として実施した。
- ・『呉市における近代化遺産の保存修復と活用』は、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（修06）の一環として実施した。
- ・『文化遺産の生物劣化と国際協力』は、文化財保存施策の国際的研究（セ01）の一環として実施した。
- ・『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究 平成18年度成果報告書』は、アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究（セ02）の一環として実施した。
- ・『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2006』は、敦煌壁画の保護に関する共同研究（セ04）の一環として実施した。
- ・『アフガニスタン流出文化財の調査 パーミヤーン仏教壁画の材料と技法』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（セ05）の一環として実施した。
- ・*Radiocarbon Dating of the Bamiyan Mural Paintings*は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（セ05）の一環として実施した。
- ・*Study of the Afghanistan's Displaced Cultural Properties*は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（セ05）の一環として実施した。

**東京文化財研究所 75 年史編纂事業 ( 情 04-06-1/2 )**

平成 19 年度の刊行をめざして、東京文化財研究所七十五年史に関わる資料収集を行い、沿革・調査研究篇については、各部・センターの担当者を中心として資料を収集し、原稿を作成した。事業・資料篇については、収集した資料をデジタルデータ化し、講座・研修・国際シンポジウム一覧等の事業関連資料とともに、事業に関連して収集された文献・画像等の一覧、旧職員一覧及び物故職員略歴などを編集、原稿化した。また、その一部を研究等に資するデジタル・コンテンツとして公開に向けて編集し、ホームページ上での公開に向けて加工を進めた。

**所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業(ニュースレター・概要・年報)( \* 情 05 )**

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、所蔵目録・バーコード化・広報企画事業(ニュースレター・概要・年報)( 情 05 )の一環として実施した。詳細は、59 頁を参照。

**平成 17 年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」( 美 04-06-1/5 )**

**『日本美術年鑑』**

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。美術部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が 1936 (昭和 11) 年から始めた「日本美術年鑑」の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。2002 (平成 14) 年において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成 17 年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成 17 年版は、下記のような構成をとり、B5 版 361 ページとなった。なお、平成 19 年度より独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館の統合に伴い、本年鑑を編集担当してきた美術部は当研究所企画情報部に整理統合することとなり、そのため同部による編集は今年度をもって最後とする。出版に際し、東京美術商協同組合より助成を受けた。



2004 (平成 16) 年美術界年史

美術展覧会 (企画展、作家展、団体展)

美術文献目録

定期刊行物所載文献

美術展覧会図録所載文献 (企画展、作家展)

物故者

**『美術研究』**

1932 (昭和 7) 年 1 月、東京文化財研究所の前身である美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第 1 号を刊行。以来、75 年にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関連する西洋美術について研究論文・図版解説・書評、展覧会評、研究資料、研究ノートを掲載し続けている。本年度は 389 号、390 号、391 号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合より助成を受けた。



『美術研究』389号(18年度第1冊/2006年6月刊行)

- (論文)謝明良(矢島律子訳)「明代晩期の宋代官窯青磁鑑賞と『碎器』の流行」  
(論文)後小路雅弘「帝国大学のパブリックアート 青山熊治『九州大学工学部壁画』」  
(書評)吉澤勝弘『白隠 禅画の世界』(浅井京子)  
(書評)生きている画家、あるいは距離の逆説 田中淳『画家がいる「場所」近代日本美術の基層から』  
について(北澤憲昭)

(研究資料)津田徹英、皿井舞「兵庫・法恩寺 木造菩薩坐像」

(研究資料)臺信祐爾「公刊『黒田清輝日記』(下)」

(解題)公刊「黒田手紙控え」及び『黒田清輝日記』(田中淳)

『美術研究』390号(18年度第2冊/2006年12月刊行)

(論文)田中淳「後期印象派・考 一九一二年前後を中心に(下)」

(図版解説)塩谷純「菊池容斎《観音経絵巻》」

(図版解説)鶴田武良「黄輔周の舌画 民国期絵画資料」

(展覧会評)皿井舞「古密教 日本密教の胎動」

(展覧会評)田中淳「アジアのキュビズム 境界なき対話」

(展覧会評)金恵信「ソウルの古宮で見るアジアのキュビズム」

(書評)日本の中国彫刻研究の百年 石松日奈子『北魏仏教造像史の研究』を読む(肥田路美)

(書評)荒屋舗透著『グレー=シュル=ロワンに架かる橋 黒田清輝・浅井忠とフランス芸術家村』

(山梨絵美子)

『美術研究』391号(18年度第3冊/2007年3月刊行)

(論文)陳芳妹(金立言訳)「追三代於鼎彝之間 宋代の『考古』から『玩古』への展開について」

(論文)朴銀卿(金正善訳)「大徳寺所蔵《水月観音図》の供養人物群像に関する新解釈」

(論文)相澤正彦「『破墨山水図』と宗淵」

(展覧会評)青木茂「森鷗外と美術」

(研究資料)津田徹英「善光寺式 阿弥陀如来像ならびに観音菩薩像」

## 『無形文化遺産研究報告』(無04-06-1/5:無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施)

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『無形文化遺産研究報告』第1号

宮田繁幸「無形文化遺産保護における国際的枠組み形成」

大島暁雄「続・無形の文化財の保護をめぐって 無形の文化財の一体的な把握  
と記録選択制度の検証」

俵木悟「無形民俗文化財映像記録の有効な保存・活用のための提言  
情報の共有と開かれた利用の実現に向けて」

飯島満「吉田兵次『とやぶれ』」

森下愛子「陶芸技術に関する展覧会から

重要無形文化財指定の『わざ』と『ひと』がどのように展覧されてきたか」

深津(福岡)裕子「染織文化財の製作技法 船載黄色毛織物の素材と技法の分



析およびその解釈」

埋忠美沙「東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵 歌舞伎絵はがき・プロマイド目録 明治・大正」

高桑いづみ「過渡期の鼓胴その後」

服部比呂美「『七夕馬』の技術伝承」

鎌倉恵子「〔聞き書き〕人形浄瑠璃文楽の鬘・床山の世界 名越昭司師に聞く」

『無形民俗文化財研究協議会報告書』( 無 04-06-1/5 : 無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施)

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催する。その第1回に当たる本年度は「民俗技術の保護をめぐる」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



テーマ「民俗技術の保護をめぐる」

・鈴木規夫「序にかえて」

・依木悟「趣旨説明」

・報告

\* 報告1 大島暁雄「『民俗技術』創設の背景と課題」

\* 報告2 菊池健策「民俗技術保護のための行政的取り組み」

\* 報告3 真島俊一「現存する民俗技術の全国的な動向と問題点」

\* 報告4 井口崇「上総掘りの技術の伝承活動について」

\* 報告5 昆政明「津軽海峡周辺地域の和船製作技術」

・総合討議

・参考資料

・アンケート集計結果

・あとがき

『保存科学』46号の出版( 保 04-06-1/5 )

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。

『保存科学』第46号

小椋大輔、石崎武志、銚井修一、北原博幸、犬塚将英、多羅間次郎、木下舞子

「高松塚古墳石室解体時の空調方法の検討」

Magdi KHALIL and Takeshi ISHIZAKI, Moisture Characteristic Curves of the Soil of Takamatsuzuka Tumulus

木川りか「古墳壁画の取り外し片等の保管時に使用する仮止めテープのカビ耐性簡易スクリーニング試験について」

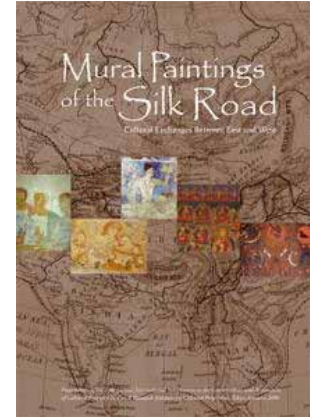
間淵創、佐野千絵「浮遊真菌調査を用いた動的な室内環境評価法の検討」



- 特別史跡キトラ古墳仮設保護覆屋をモデルとして」  
木川りか、佐野千絵、立里臨、喜友名朝彦、小出知己、杉山純多  
「キトラ古墳のバイオフィルムから分離されたバクテリア・菌類に対するケーソン CG 相当品（抗菌剤）の効果」  
早川泰弘、佐野千絵、三浦定俊、太田彩「伊藤若冲『動植綵絵』の彩色材料について」  
加藤将彦、丹沢穰、平井昭司、早川泰弘、三浦定俊「武雄鍋島家所蔵皆春齋絵具の材質分析」  
吉田直人「紫外・可視反射スペクトル法による染料非破壊分析のための基礎研究（3）  
染織品を想定した試験片の紫外スペクトル測定」  
松島朝秀、三浦定俊「文化財の透過 X 線撮影におけるマンモグラフィ用フィルムの特性」  
犬塚将英、李栄篤「ガス電子増幅フォイルを用いた文化財の X 線透過撮影のための検出器の開発」  
神谷嘉美、加藤寛、佐野千絵「燻蒸製剤による金属表面の外観変化 評価手法の検討」  
吉川也志保、小島浩之、佐野千絵「大学における学術資料の保管状況とその問題点  
東京大学経済学部図書館の事例」  
木川りか、小峰幸夫、山野勝次、石崎武志「旧日向別邸 ブルーノ・タウト「熱海の家」の虫害調査  
フルホンシバンムシ(*Gastrallus* sp.) による木材の被害例について」  
ルドルフ・プラーゲ、石崎武志「石造建造物の壁面の劣化に関わる水分、塩分分布の測定」  
朽津信明「エコーチップ試験による文化財石材の硬さに関する研究」  
高林弘実、初井基充、大竹秀実、王小偉、柴勃隆、淵田雄、中村夏葉、岡田健  
「敦煌莫高窟第 285 窟壁画の光学調査（1）」  
宇野朋子、谷口陽子、青木繁夫「パーミヤーン遺跡における環境調査（2） 石窟内環境と保存対策」  
谷口陽子、マリーン・コット、エミリー・シェクーン、大竹秀実「パーミヤーン仏教壁画の材質分析（2）  
シンクロトロン放射光を用いた N(a)窟における錫箔を用いた技法の分析」  
大竹秀実、谷口陽子、青木繁夫「パーミヤーン仏教壁画の保存修復（2） I窟および N(a)窟における保存修復」  
エミリー・シェクーン、大竹秀実、谷口陽子「壁画表面の水溶性黒色物質の洗浄  
パーミヤーン N(a)窟の事例」  
木川りか、佐野千絵、石崎武志、三浦定俊「高松塚古墳における菌類等微生物調査報告（平成 18 年）」  
犬塚将英、石崎武志「高松塚古墳解体時のための観測システム」  
木川りか、佐野千絵、間淵創、三浦定俊「キトラ古墳における菌類等生物調査報告（3）」  
佐野千絵、犬塚将英、間淵創、木川りか、吉田直人、森井順之、加藤雅人、降幡順子、石崎武志、三浦定俊  
「キトラ古墳保護覆屋内の環境について（2） 土壌水分量推移と環境管理」  
吉田直人、佐々木良子、加藤雅人、吉川也志保、岡本幸治  
「『独々涅烏斯（ドドネウス）草木譜』原本の科学的調査（2）」  
谷島千明、岡村秀樹、吉田直人、佐野千絵「ポータブルマルチ LED 蛍光分析装置の評価  
既存装置との測定結果の比較」  
佐野千絵「文化財への微生物被害と調査手法 保存科学 1号～45号」  
佐野千絵、木川りか「文化財の生物被害防除手法に関するアンケート集計結果  
2005 年臭化メチル全廃を迎えて」  
佐野千絵、木川りか「臭化メチル製剤の使用停止に伴う文化財の新たな生物被害防止法の情報普及  
博物館美術館等保存担当学芸員研修 研修前アンケートから読む」  
犬塚将英、新田建史、白石靖幸、石崎武志「静岡県立美術館における温熱環境の測定」  
佐野千絵「文化財公開施設の空気調和設備等の設置状況 保存環境調査から」  
二神葉子、沖野範子「重要文化財美術工芸品の GIS データベース構築と今後の課題」  
吉田直人、佐野千絵、石崎武志「展示公開施設の館内環境調査報告 平成 17 年度」

**第 29 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書 (セ 09-06-1/1)**

2006年1月24日～26日に国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室で開催したコロキウムと、1月28日に東京国立博物館平成館講堂にて開催したシンポジウムの際の、各発表及び討論をまとめたものである。英語版及び日本語版をそれぞれ刊行した。



**\* *Mural Paintings of the Silk Road: Cultural Exchanges between East and West***

Shigeo AOKI, Preface

Norio SUZUKI, Foreword

Acknowledgements

Yoko TANIGUCHI, Introduction

**Part I : Art, History and Cultural Exchange of the Mural Paintings**

David PARK, Mural Painting in Transcaucasia

Frantz GRENET, The 7th-century AD 'Ambassadors' Painting' at Samarkand

Kosaku MAEDA, Mural Paintings along the Silk Road

Akira MIYAJI, Indian Influence on Mural Paintings along the Silk Road

Ken OKADA, Buddhist Mural Paintings in China

Akio DONOHASHI, Ancient Painted Tumuli in China

KIM Lena, Chinese and Central Asian Connection in the Koguryo Mural Paintings

Shumpei IWAI, Radiocarbon Dating and Art-Historical Studies in Central Asian Mural Paintings

Akiyoshi WATANABE, Japanese Mural Painting

Discussion 1. Aspects of Cultural Contact: Diffusion, Acculturation and Creation

**Part II : Influence on Painting Techniques and Materials**

Nobuaki KUCHITSU, Impact of the Introduction of Buddhism on the Variation of Pigments used in Japan

Ioanna KAKOULLI, Intercultural Links and Trade of Painting Materials in the Greco-Roman Period

Alexander KOSSOLAPOV, Kamila KALININA, The Scientific Study of Binding Media and Pigments of Mural Paintings from Central Asia

Motomitsu MOMII, Hiromitsu SEKI, Displaced Cultural Properties: Non-Invasive Study on Mural Painting Fragments from Bamiyan

SHARMA R. K., Painting Techniques and Materials of Cave Mural Paintings in India and their Conservation Problems

MA Tao, QI Yang, ZHOU Weigang, YANG Qinying, A Comprehensive Survey on the Techniques of Ancient Wall Paintings in the Western China

WANG Xudong, FU Peng, Summary of Painting Materials and Techniques of the Mogao Grottoes

Discussion 2. Painting Materials and Techniques of the Mural Paintings along the Silk Road

**Part III : Key Issues on the Conservation of the Mural Paintings along the Silk Road**

Sadatoshi MIURA, Conservation of Mural Paintings of Takamatsuzuka Tumulus and its Current Situation

Sadatoshi MIURA, The History and Current Situation of Conservation of Mural Paintings in Japan  
KIM Yeon-mi, KANG Hyung-tae, Conservation Treatments for the Wall Paintings of Central Asia  
possessed by the National Museum of Korea

Yoko TANIGUCHI, Issues of Conservation for the Bamiyan Buddhist Mural Paintings

Adelia BLIAKHER, Vera FOMINYKH, Conservation and Restoration of Monumental Painting from  
Archaeological Excavations

WANG Xudong, Conservation of Mural Paintings in Western China and of the Mogao Grottoes

Rocco MAZZEO, Edith JOSEPH, Silvia PRATI, Vanna MINGUZZI, Giancarlo GRILLINI, Pietro  
BARALDI, Daria PRANDSTRALLER, Scientific Examination of Mural Paintings of the Koguryo Tombs

Sharon CATHER, Issues in the Conservation of Mural Paintings: Past and Present

Discussion 3. Issues in the Conservation of Mural Paintings

Discussion 4. Mural Paintings of the Silk Road: Their Conservation and Future Issues

\* 『シルクロードの壁画（第29回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「シルクロードの壁画が語る東西文化交流」コロキウム・シンポジウム報告書）（日本語版報告書）

鈴木規夫「序にかえて」

谷口陽子「シルクロードの壁画が語るものとは？」

### I 壁画美術とその交流史

デイヴィッド・パーク「トランス・コーカサスにおける壁画」

フランツ・グルネ「サマルカンド出土『使節の壁画』に関する最新の研究」

前田耕作「シルクロードの壁画」

宮治昭「インドからみたシルクロードの壁画」

岡田健「中国の仏教壁画」

百橋明穂「中国の古墳壁画」

キム・リナ「高句麗古墳壁画にみられる中国と中央アジアの関連について」

岩井俊平「中央アジアの壁画の放射性炭素年代と美術史編年の比較」

渡邊明義「日本の壁画美術」

ディスカッション I : 「文化交流の諸相（伝播・受容・変容・創造）」

### II 壁画製作技法の波及：材料と絵画技法

朽津信明「仏教伝来前後の日本で用いられた顔料の特徴について」

イオアナ・カクウリ「グレコ=ローマ時代における絵画材料の異文化間交流と交易」

アレクサンダー・コソラポフ、カミラ・カリニーナ

「中央アジアの壁画における膠着材および顔料に関する科学的分析」

初井基充、関博充「流出文化財バーミヤーンの仏教壁画に関する材料と絵画技法の非接触調査」

ラジンダー・クマール・シャルマ「インドにおける石窟壁画の彩色技法および材料とその保存について」

馬濤、齊揚、周偉強、楊秋穎「中国西域における古代壁画技術に関する包括的調査」

王旭東、傅鵬「敦煌莫高窟における壁画材料と技法」

ディスカッション II : 「シルクロード地域の壁画材料と絵画技法」

### III シルクロード周辺地域における壁画保存の現状と課題

三浦定俊「高松塚古墳壁画の保存と現状」



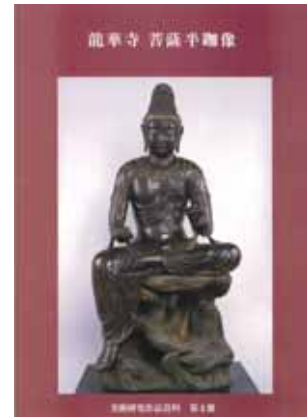


三浦定俊「日本における壁画保存の歴史と現状」  
 カン・ヒョンテ、キム・ヨンミ「韓国国立中央博物館所蔵中央アジア将来壁画の保存処理」  
 谷口陽子「バーミヤーン仏教壁画の保存とその課題」  
 アデリア・ブリアヘル、ヴェラ・フォミニーフ「遺跡から出土した壁画の保存と修復」  
 王旭東「中国西域および敦煌莫高窟における壁画保存について」  
 ロッコ・マツエオ、エディス・ジョゼフ、シルヴィア・プラティ、ヴァンナ・ミングッツィ、ジャンカルロ・グリッリーニ、ピエトロ、バルルディ、ダリア・プランスタレル  
 「高句麗古墳壁画の自然科学的分析調査について」  
 シャロン・カーター「壁画保存の歴史、現状と課題」  
 ディスカッション III：「壁画保存研究の課題と展望」  
 ディスカッション（シンポジウム）：「シルクロードの壁画：そしてその保存とこれからの課題」  
 青木繁夫「あとがき」

『龍華寺 菩薩半跏像 美術研究作品資料 第四冊』（美01の一環として実施）

美術部のプロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の報告書。今年度は横浜市龍華寺に伝来する菩薩半跏像の調査報告をまとめ、『美術研究作品資料』第四冊とした。版型は B4 判。モノクロ、カラー口絵あわせて 48 頁。本文 44 頁。本文は次のように、論文、調書、英文要旨で構成されている。

津田徹英「横浜・龍華寺蔵 脱活乾漆造菩薩半跏像をめぐる知見」  
 津田徹英「【調書】菩薩半跏像」  
 津田徹英「【参考調書】如来像頭部 兵庫・金蔵寺」  
 英文要旨



『黒田清輝著述集』（美02の一環として実施）

美術部では日本近代洋画の礎を築き、また当研究所の創設に大きく与った画家、黒田清輝について、これまでさまざまな角度から研究を行ってきたが、今年度は彼が新聞や雑誌に遺した談話や文章を集成した『黒田清輝著述集』を編集・刊行した。

黒田の著述を集めたものとしては、すでに『絵画の将来』（中央公論美術出版、1983 年刊）があるが、今回は、先行書では未収録のものにその後新たに確認されたものを加え、長短あわせて 152 篇もの記事をおさめた。自身の制作に関する談話はもちろん、美術行政家として手腕を發揮した黒田らしく展覧会や美術館についての提言、さらには歌舞伎の素人評や自らの失敗談など内容も多岐にわたっている。採録した記事の末尾には適宜注釈を入れ、また文字も原典の字体を可能な限り忠実に再現して、掲載当時の雰囲気や極力伝えるようにした。



『韓日共同研究報告書 2006』( 修 01 の一環として実施)

国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告書。

大韓民国文化財庁・国立文化財研究所との共同刊行。



Hong Jong-ouk, The Characteristics of Ancient Pigments used to Cultural Heritage in Korea

朽津信明「日本における漆喰使用古墳とその意義」

山路康弘「緒方宮迫東石仏・緒方宮迫西石仏の保存修理事業について」

Jeong Min-ho, A Study on Vegetation and Air Pollutants of the Rock-carving Buddha Statuary at the Namsan Tapgok, Gyeongju, Korea

Jun Byung-kyu & Lee Chan-hee, , Conservation Scientific Assessment from the Three-Dimensional Image Data of Rock Cultural Heritage

- Focused on Multi-Storied Stone Pagoda in the Daewonsa Temple, Sancheong, Korea -

森井順之「覆屋が磨崖仏保存環境に与える影響と凍結防止策の検討」

Hong Jung-ki, Eom Doo-sung, Chung Yong-Jae& Masayuki MORII, Investigation on the Conservation Environment for the Shelter of Stone Cultural Heritages- Focused on the Standing Stone Buddhist Triad in Bae-ri, Gyeongju and Rock-carved Triad Buddha in Seosan -

『文化財の防災計画に関する研究 第2回研究会 震災から文化財をまもる』( 修 02 の一環として実施)

坂本功「基調講演 現代工学から見た伝統的木造建築の構造」

< 質疑応答 >

二神葉子、隈元崇「活断層に起因する文化財の地震危険度評価

最勝院五重塔」

井野盛夫「人と文化財の東海地震対策」

河口公夫「《地獄の門》免震化工事と彫刻の保存」

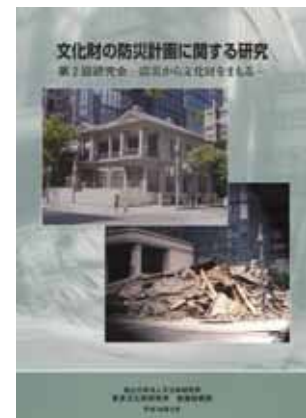
小沼景子「文化財建造物における耐震対策の取り組み」

花里利一「インド・グジャラート地震による歴史的建造物の被害と復旧・復興」

< 質疑応答・総合討議 >

森井順之、高尾曜「震災により被災した文化財の現在」

【付録】文化財の収蔵保管と公開展示に当たっての防災対策の研究成果報告



『伝統的修復材料に関する調査研究』( 修 03 の一環として実施)

刊行にあたって

館川修、小宮山健二、加藤寛「屋外塗装における漆暴露資料の作成について」  
 館川修、小宮山健二、加藤寛「文化財修復に使用した合成樹脂の劣化状況調査報告」  
 神谷嘉美、加藤寛、宮腰哲雄「漆を使用した劣化塗膜の強化手法の比較  
 紫外線照射により劣化した黒漆塗り塗膜に及ぼす影響について」  
 加藤恵「草木染」  
 山崎和樹「草木染の色彩的特徴」  
 山崎和樹「草木染の特徴について」  
 山崎和樹「草木染染色実習」  
 山崎和樹「藍・生葉／紅花染デモンストレーション」  
 山崎和樹「紙の引き染」  
 津田千枝子「インド藍の染色」  
 アンケート結果



*International Course on Conservation of Japanese Paper 2006* ( 修 05 の一環として実施)

国際研修第 10 回「紙の保存と修復」報告書

On the Publication of the Report on the International Course on Conservation of Japanese Paper 2006 ( 刊行にあたって)

Schedule ( 研修日程)

List of Participants ( 研修生リスト)

List of Lecturers ( 講師リスト)

【Lectures ( 講義)】

KAWANOBE Wataru, Adhesives for the Restoration of Cultural Properties

( 川野邊渉「文化財修復に用いられる膠着材について」)

IKEDA Hitoshi, Preservation and Restoration of Paper Cultural Properties in Japan

( 池田寿「日本の紙文化財の保存と修復」)

YAMAMOTO Noriko, Restoration of East Asian Paintings and Calligraphic Works from the Viewpoint of Painting Materials and Methods - On the Methods of Adhesion -

( 山本記子「絵画材料とその技法から東洋絵画書跡の修理を考える 接着の方法について」)

OKA Yasuhiro, The Outline of Asian Art Conservatio

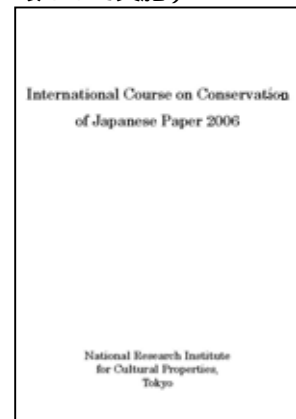
( 岡泰央「装演技術概論」)

INABA Masamitsu, Washi Basics : Papermaking, Durability and Effect of Moisture Change

( 稲葉政満「和紙入門：製造法、耐久性、水分変化の影響」)

【Practical Work ( 実技)】

Coached by the Association for Conservation of National Treasures ( 国宝修理装演師連盟)



刊行物 Area16

Hand Scroll (巻子)

Book (冊子)

Hanging Scroll (掛軸)

Folding Screen (屏風)

Paste (糊)

Brushes (刷毛)

【Study Tour to Mino and Kyoto (研修旅行 / 美濃・京都)】

【Discussion】

【Glossary】

『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成 18 年度 (絵画 / 工芸品)』( 修 04 の一環として実施)

平成 17 年度、在外日本古美術品保存修復協力事業の対象作品の修復に関する報告。

報告書の刊行にあたって

佐野智典「在外日本古美術品の事業報告」

保存修復協力事業 / 所蔵博物館一覧 / 現地作品調査

〔絵画篇〕

カラー口絵

大政威徳天縁起絵巻

山口聡太郎「修理報告」、相澤正彦「作品解説」

京洛図屏風

山口聡太郎「修理報告」、塩谷純「作品解説」

涅槃図

坂田雅之「修理報告」、勝木言一郎「作品解説」

平家物語図屏風

竹上幸宏「修理報告」、綿田稔「作品解説」

天川弁才天曼荼羅図

堀田圭吾「修理報告」、津田徹英「作品解説」

烏図屏風

君嶋隆幸「修理報告」、綿田稔「作品解説」

二河白道図

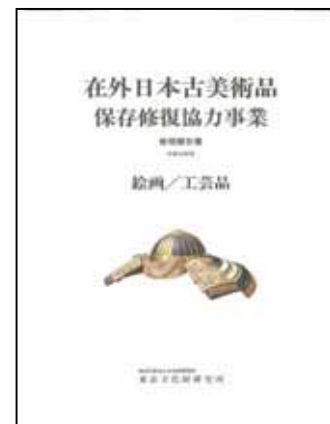
半田昌規「修理報告」、津田徹英「作品解説」

〔工芸品篇〕

カラー口絵

「黒韋腰取緘筋兜」メトロポリタン美術館 田口義明

「耕作図蒔絵料紙箱」ロサンゼルス・カウンティ美術館 小西美術工藝社



**Conservation of Large Scale Structures** ( 修 06 の一環として実施 )  
近代の文化遺産の保存修復に関する報告書

Foreword

About this Booklet

< Part. 1 Restoration, Preservation and Utilization of Large Scale Structures in Japan >

Daijiro Kitagawa, Protection of “Kindaika-isan”: Present State and Future Challenges

Wataru Kawanobe, Issues in the Conservation of Large Scale Structures

Masayuki Morii, Conservation of the Railway Facilities at Usui Pass

Takashi Ito, Conservation and Utilization of Modern Cultrual Heritage

Takeshi Hara, Fortresses and Batteries : The Course of their Construction and the Status of their Survival

Yasuhiko Nishizawa, Dry Docks as Modern Cultural Heritage

< Part. 2 Restoration, Preservation and Utilization of Large Scale Structures in Europe >

Alfred Gottwaldt, Operating a Protected Railway Line in a Big City: The Berlin Stadtbahn System

Norbert Tempel, Vintage Civil Engineering Structures-A Challenge for Restoration and Maintenance-

Hans-Peter Bärstsch, Preservation of Big Scale Industrial Heritage-Case Studies in Europe-

Rolf Höhmann, Three Civil Engineering Landmarks in Germany

-Preservation, Restoration and Further Use-

Visits to Large Scale Structures in Japan

Talks in Regard to the Conservation of Large Scale Structures

Editor's Postscript

**『呉市における近代化遺産の保存修復と活用』** ( 修 06 の一環として実施 )

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書

刊行にあたって

川野邊渉「呉市における近代化遺産の保存修復と活用」

松下宏「旧海軍呉鎮守府兵器部石垣護岸」

石丸紀興「呉市における近代化遺産の保存修復と活用

広島市における場合を比較して 」

【呉レポート】

ハンス・ピーター・ベルチ「呉の旧海軍施設」

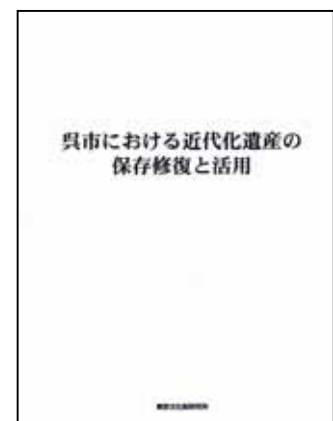
ノルベルト・テンベル「呉の海事・産業遺産」

ロルフ・ホームマン「呉の給水施設」

アルフレッド・ゴッドヴァルド「大和ミュージアム」

【研究会講演録】

アルフレッド・ゴッドヴァルド「ドイツ技術博物館におけるオブジェクトの展示・調査・保存」



ノルベルト・テンペル「発展するヨーロッパの『水』の景観」  
ハンス・ピーター・ベルチ「スイスの船舶関連遺産」  
ロルフ・ホームマン「港湾関連の近代化遺産について」

### 『文化遺産の生物劣化と国際協力』(セ01の一環として実施)

この報告書は、第20回国際文化財保存修復研究会で行われた報告、質疑応答、総合討議等の内容をまとめたものである。(2007年3月発行)

朽津信明「序」

朽津信明「開会挨拶・趣旨説明

—屋外文化財に対する生物の影響に関して—

#### 1 講演と質疑応答

ジュリア・カネーヴァ(ローマ第三大学)「屋外文化財の生物劣化と保存」

宋苑瑞(筑波大学大学院)「微生物の岩石風化への影響」

チラーポン・アラヤナーク(タイ国立博物館)

「タイにおける遺跡の生物劣化」

川口孝(正栄建装)「石造文化財保存のための生物除去法—熊野磨崖仏他事例報告—」

#### 2 総合討議

朽津信明「研究会総括」

発表者紹介

参加者名簿



文化遺産の生物劣化と国際協力

『第20回国際文化財保存修復研究会報告書』

東京国立文化財研究所  
国際文化財研究所文化遺産国際協力センター

### 『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究 平成18年度成果報告書』(セ02の一環として実施)

この報告書は、「アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究」による平成18年度分の成果をまとめたものである。(2007年3月発行)

#### 1. 研究費及び研究組織

#### 2. 研究概要

#### 3. 研究成果

#### 4. 資料



『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2006』(セ04の一環として実施)

本報告は、平成18年度に開始された東京文化財研究所と敦煌研究院の共同による第5期「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」(5年間)の第1年目活動内容の概略を示すものである。



1. 岡田健「はじめに」
  2. 岡田健「2006年度活動概要」
  3. 第一次日中共同調査の調査報告
    - 3.1. 高林弘実、初井基充、大竹秀実、王小偉、柴勃隆、淵田雄、中村夏葉、岡田健「第285窟壁画の光学調査」
    - 3.2. 高林弘実、范宇権、于宗仁、李燕飛、趙林毅  
「デジタル顕微鏡による第285窟南壁の表面観察」
    - 3.3. 高林弘実、范宇権、于宗仁、李燕飛、趙林毅「第285窟南壁の分光反射率測定」
    - 3.4. 宇野朋子、森井順之、薛平、侯文芳、張国彬「莫高窟第53窟の石窟内環境調査」
    - 3.5. 高林弘実、中村俊夫、陳港泉、郭青林、于宗仁  
「莫高窟初期窟の放射性炭素年代測定 分析試料の採取」
    - 3.6. 谷口陽子、齋藤努、范宇権、于宗仁、趙林毅  
「鉛同位対比分析による鉛系顔料(鉛丹・鉛白)の産地推定への試み(1): 試料の採取」
  4. 岡田健「評価委員会」
  5. 岡田健「敦煌派遣研修」
  6. 高林弘実「敦煌研究院来日研修」
  7. 蘇伯民「総括」
- 和文の報告には英文アブストラクトを添付した。

刊行物 Area16





刊行物 Area16